

# 教科「おおたの未来づくり」素地づくり

## 第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 令和4年9月28日(水)

第5校時 13:40~14:25

対象 第4学年2組 29名

授業者 K.M

### 研究主題

### 地域とともに生きる児童の育成

### ～地域財発掘からのカリキュラム開発～

### 目指す児童像

地域財に出会い、疑問やひらめきをもてる子

様々な人と豊かにかかわり、自らの成長にいかせる子

わくわくする気持ちで夢中に学び続ける子

1 単元名 「わたしたちが発信します～地域にひろげよう矢口小もん～」(20時間扱い)

2 単元設定の理由

学校近隣の矢口の地域、矢口商店街や安方商店街を学習対象に設定することによって、実際に足を運び、直接対象とかわりながら、地域の特色、地域の活性化に力を注ぐ人々の思い、よりよい街づくりに向けた活動や取り組みなどに触れ、自分たちが学習したことを生かす活動は、5、6年生での教科「おおた未来づくり」への素地をつくると考える。

矢口商店街は矢口渡駅(東急多摩川線)南側に位置し、改札から多摩川に向けて400mほど続く商店街である。1年を通しておこなわれる「サンデーバザール」では、多くの人が足を運ぶイベントになっている。ここ数年はコロナ禍で中止となっているが「わたしの盆踊り」は地域に親しまれる行事となっており、そこでは本校の児童による矢口ソーラン節も披露もしてきた。また、矢口渡をモチーフにした街路灯があり、その支柱には矢口渡しで討ち死にしたといわれる新田義興が鎮座している。このほかにも車止めにも船に乗った新田義興が描かれるなど、街の歴史を感じさせる商店街でもある。

安方商店街は矢口渡駅(東急多摩川線)駅北側に位置し、かつては「荏原高校通り商店街」と呼ばれていた。個人商店が主流で、地域に根差した商店が約40軒を連ねている。綺麗に舗装され、買い物がしやすいのが特徴である。最近では、近くの日体荏原高校とも連携を図り活性化を図るなどの取り組みを行っている。その昔は矢口渡駅の南北に伸びていた安方商店会が、環状八号線が走ったことで、2つの商店

街が誕生した歴史がある。

矢口の地域、安方商店街や矢口商店街は、子どもたちが探究的にかかわりを深める学習対象として魅力的な「ひと・もの・こと」すなわち地域財にあふれている。地域住民に親しまれる商店街を目指して活性化に取り組む「ひと」、環状八号線を挟んで約150を超える商店が続く街並みなどの「もの」、商店街の行事などの「こと」。こうした身近な地域や商店街のもつよさや、人々のがんばりを見付け、人々の願いを知り、よりよい地域づくりのために自分ができることを考え実践していく中で、課題を見付け追究していく資質や能力を育てたいという願いを込めて本単元を設定した。

### 3 単元の目標

#### 第1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

#### 矢口小学校の総合的な学習の時間の目標

探究的な学習を通して、地域や人と「かかわり」、多面的に問題を追究する方法を身に付け、主体的、かつよりよく問題を解決する能力や協同的な態度を育てるとともに、自分の生活に生かしたり、これからの自分の生き方を考えたりすることができるようにする。

#### (1) 本単元の目標

自分たちの住む地域を知り、地域や商店街の活性化に携わる人々の思いや願いに気づくとともに、地域のために自分たちができることを考え、自分たちで創作した矢口小紋を提案することを通して、問題解決を図る力(課題を追究する力)を身に付ける。

| 資質・能力        |                | 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な姿                                       |
|--------------|----------------|--|
| 知識及び技能       |                | 地域や商店街の人たちの思いや願いを知り、自分たちが創作したものを提案することができる。                  |
|              |                | 調査活動や情報収集の手順を身に付け、必要に応じて発揮することができる。                          |
|              |                | 探究的な学習を通して、自分たちの生活が地域とつながっていることを理解する。                        |
| 思考力、判断力、表現力等 | 課題の設定<br>課題の追究 | 自分の関心から地域、商店街についての課題を設定し、解決方法を考えて追究することができる。                 |
|              | 情報の収集          | 目的に応じた対象を決め、自分たちの身近なところから情報を集めることができる。                       |
|              | 整理・分析          | 問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、特徴を見付けることができる。 |

|                  |        |                                    |
|------------------|--------|------------------------------------|
|                  | まとめ・表現 | 相手に応じてわかりやすくまとめ、表現することができる。        |
|                  | 振り返り   | 学習したことを振り返り、地域や生活に生かそうとしている。       |
| 人間性等<br>学びに向かう力、 | 主体性    | 課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組もうとする。     |
|                  | 協働性    | 課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組もうとする。 |
|                  | 自己理解   | 自分のよさや自分にできることに気付いている。             |
|                  | 他者理解   | 自分と異なる意見や考えがあることに気づき、相手の立場を理解する。   |
|                  | 社会参画   | 自分と地域とのつながりに気づき、地域の活動に参加しようとしている。  |

## (2)「創造的な資質・能力」の素地づくりとして

### 【知識・理解】

- ①問題解決に必要な情報を収集するための知識及び情報を収集する技能を習得する。
- ②分かったことや考えたことを相手に分かりやすく伝えるための知識及び技能を習得する。

### 【思考力・判断力・表現力】

- ①目標と現状、予測と結果、異なる意見などを比較し、問題を発見する力を身に付ける。
- ②既習事項や収集した情報、多様な考えを整理して問題解決策を考える力を身に付ける。
- ③問題を発見し、解決策を考え、実行することを繰り返して、問題解決を図る力を身に付ける。

### 【学びに向かう力、人間性等】

- ①実社会で活躍する人との対話を大切にし、問題の発見・解決に資する情報収集に進んで関わろうとする態度を養う。
- ②問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよさを生かしながら主体的に取り組もうとする態度を身に付ける。
- ③学習を振り返って学習状況を把握し、次の問題発見・解決につなげていこうとする態度を養う。

#### 4 単元の評価規準

|                             | 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|-----------------------------|--|--|--|
| 単元<br>の<br>評<br>価<br>規<br>準 | <p>①地域や商店街の人たちの思いや願いに添って、自分たちが創出したものを提案している。(知識)</p> <p>② インタビューやアンケートなど相手や場面に応じた方法で実施し、目的に応じた情報収集の仕方をおこなっている。(技能)</p> <p>③ 地域と自分たちの生活がつながっていることの理解や行動の変容は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。(探究的な学習のよさ)</p> | <p>①<b>地域や商店街の人たちの思いや願い添って、課題を設定し解決方法を考えて追究している。(課題設定・追究)</b></p> <p>②目的に応じて自分たちの身近なところから情報を集めている。<br/>(情報収集)</p> <p>③問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、特徴を見付けている。<br/>(整理・分析)</p> <p>④相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。<br/>(まとめ・表現)</p> <p>⑤学習したことを振り返り、地域や生活に生かしている。<br/>(振り返り)</p> | <p>①課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。<br/>(主体性)</p> <p>②課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。<br/>(協働性)</p> <p>③自分のよさや自分にできることに気付いている。(自己理解)</p> <p>④自分と異なる意見や考えがあることに気づき、相手の立場を理解している。(他者理解)</p> <p>⑤自分と地域とのつながりに気づき、地域の活動に参加しようとしている。<br/>(社会参画)</p> |

#### 5 使用する教材

矢口小紋作りは、Googleのスライドを使用して図案を作った。作った図案はレーザーカッターを使用して専用用紙に転写し、裁断をして型紙にした。その型紙を使用して染付をおこなった。

#### 6 指導観

##### (1) 単元観

3年生の社会科「商店街のひみつ」では、地域の商店街には様々な店があること、それぞれの店が創意工夫をしながら集客をしていることを学習している。その上で、オンラインを活用した商店街見学をおこない複数の店舗と交流をしてきた。また、学習を活かして総合的な学習の時間と図工科「ようこそ矢口商店街」ではドールハウスを個々で作成したり、個人商店にプレゼントしたりする活動を経験している。3年生の学習を通して、商店街はより身近なものとなっている。学区には2つの商店街があるが、3年生では矢口商店街のみと交流をしているため、今回はもう一方の安方商店街にも目を向け、活動場所を広げ授業を展開していく。

4年生では、国語「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」社会「きょう土の伝統文化と

先人のはたらき」「東京都の特色ある地いき～新宿区でさかんな東京そめ小もん」を学習し、新宿区にある「東京染めものがたり博物館」にて染小紋糊付けを体験している。伝統工芸のよさを学習する中で、「自分たちでも伝統工芸に近いものを作りたい」「何かできることはないか」と意欲を高めてきた。そしてこれらの学習をきっかけに、本単元で「矢口小もんを作って商店街や保育園、幼稚園に広め、よさを知ってもらい、使ってもらおう」「この学習を通して元気や笑顔をとどけよう」という目当てを学級で立て、児童が学習計画を作成した。

単元最初に、商店街をグループごとに歩き、各商店を様々な視点で観察し、地域の人や商店の人たちから話を伺う機会を設定した。実際にお店の中に入れていただき、話をさせてもらった経験は、「自分たちに何ができるか」という意欲の高まりにつながった。そしてその情報収集から、作れそうなものを学級で列挙、分類し学級内で分担をして試作をしていく活動を設定した。本時では、試作したものを商店街会長に提案したり、友達からアドバイスをもらい再考したりする活動をおこなう。同時に、この活動を通して相手に応じてわかりやすくまとめること、表現していくことも身に付けさせていきたいと考えている。本格的に商店街の各商店へ受注する前に、直接、商店街会長に試作を見てもらうことは、改めてよりよいものを作ろうという意欲や試行錯誤につながると考えた。本時を受けて、更に受注の仕方を考え、発信していく活動も取り入れていく。自ら受注し、お店の方々の願いに添ったものを試行錯誤しながら製作する体験を通して本単元の目標に迫っていく。

## (2) 児童観

本校は2つの商店街の近くに位置し、商店街を歩いて登下校する児童も多い。また、日常生活でも商店街を利用する児童が多く、商店街は身近な存在である。1学期の総合的な学習の時間では「考えよう、地球にやさしい生活」という活動を通して、ゴーヤを育てたり、環境に関することを調べたり、グループでの探究活動をおこなってきた。グループ毎にテーマを決め、試行錯誤を繰り返しながら探究し、スライドにまとめ発表し、探究する活動の楽しさを味わってきた。また、各教科で学習したこと、これまで経験してきたことを生かそうとする姿勢もある。協働する活動、探究活動も好んでおり、授業外の時間を使って意欲的に取り組む児童も多い。ただ、自分で課題を設定すること、追究することが苦手な児童も数名いる。学級内の学力差も大きい。全体的に素直で言われたことは何でもやってみようとするが、深まりや試行錯誤の仕方に課題があるので、時間を十分に確保したり、交流の仕方を工夫したりして手立てを与えながらより深い試行錯誤、探究活動となるように指導していきたい。

## (3) 教材観

1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるかを考え単元を構成してきた。

## 7 単元の指導計画と評価計画（20時間扱い）

| 時 | ◇指導のねらい    | ○学習活動                                 | ◆具体的な評価規準（方法）                           |
|---|------------|---------------------------------------|---|
| 1 | 学習問題をつくらせる | ○学習問題をつくる。<br>○学習計画を立てる<br>→イメージマップ活用 | ・課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。<br>(主体性) |

|                   |   |  |  |
|-------------------|---|--|--|
| 2<br>3            | 矢口小紋づくりのイメージをもたせる。  | ○矢口小紋の試作をする。(個人)<br>ICT を活用して簡単な模様を描き、地型を作り、染付をする。   | ・課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。<br>(協働性)  |
| 4<br>5            | 地域や商店街の様子を様々な視点で探索させ、地域財にふれさせる。                             | ○地域や商店街を探索し、地域の人と出会う中で、<br>○グループ分け   | ・目的に応じて自分たちの身近なところから情報を集めている。(情報収集)  |
| 6                 | 試作できるものを考えさせる。  | ○自分たちにできることを考える。(アイデアを拡散的に出す)<br>→イメージマップ活用  | 地域の人たちの思いや願い添って、課題を設定している<br>(課題設定)  |
| 7<br>8<br>9<br>10 | 「いつ、どこで、だれが、どのように使うか」など相手意識を明確にもたせ、協働しながらイメージしたものを創作、試作させる。 | ○矢口小紋を創作し、試作を作ったり、提案したりできるようにする。<br>→創作活動<br>○学級内で意見を集める。<br>○意見を整理し、試作や提案をよりよいものにする。<br>→ブラッシュアップを毎時間繰り返す | ・解決方法を考えて追究している。(課題追究)<br>・課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。(協働性)<br>・問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、特徴を見付けている。(整理・分析)<br>・自分と異なる意見や考えがあることに気づき、相手の立場を理解している。(他者理解) |
| 11                | (本時)<br>グループで試作したものを提案する活動を通して、さらによりよいものを創作していかうとする意欲を高める。  | ○試作紹介の会を開き、地域の人や商店街の人へ試作したものを見せたり、提案したりする。<br><br>○互いにアドバイスをし合い再考する。                                       | ・地域の人たちの思いや願いに添って、自分たちが創出したものを提案している。(知識)<br>・相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。(まとめ・表現)<br>・自分と地域とのつながりに気づき、地域の活動に参加しようとしている。(社会参画)  |
| 12<br>13<br>14    | 地域や商店街の人たちへどのように、受注をするか話し合いをさせ、実践させる。                       | ○受注に向けての活動   | ・地域や商店街の人たちの思いや願いに添って、自分たちが創出したものを提案している。(知識)<br>・相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。<br>(まとめ・表現)  |
| 15                | 受注を受けてどのように進めていくか、学年全体で話し合う。                                | ○学年作戦会議をする   | 問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、特徴を見付けている。<br>(整理・分析)  |

|                      |                        |                                     |  |
|----------------------|------------------------|-------------------------------------|--|
| 16<br>17<br>18<br>19 | グループごとに創作活動をおこなわせる。    | ○製作活動                               | ・解決方法を考えて追究している。(課題追究)<br>・課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。(協働性)  |
| 20                   |                        | 納品                                  | ・地域や商店街の人たちの思いや願いに添って、自分たちが創出したものを提案している。(知識)  |
| 21                   | 何を学び、どのように成長したかを振り返らせる | ○振り返り<br>○学習したことをいかして、俳句や川柳を詠み交流する。 | ・学習したことを振り返り、地域や生活に生かしている。(振り返り)<br><br>・地域と自分たちの生活がつながっていることへの理解や行動の変容は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。(探究的な学習のよさ) |

## 8 研究主題に迫るための手だて

### (1) 研究の経過

#### 中学年部会の常時活動の取り組み

(授業づくりの視点) 下記①～④の視点で毎回授業をつくり、点検していく。

① 興味や関心をもっているか

② 見通しをもっているか

(教師の指示を待っている限り、児童の思考は活性化しない。すなわち「主体的な学び」から遠ざかる。)

③ 粘り強く取り組んでいるか

④ 自分の学びの振り返りができるか

探究的な学習や協働的な学習を重点におく。「探究タイム」の時間を十分に保障する。

十分保障することで、児童の学ぶモチベーションが高くなる。

探究的な学習を実現するため、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視する。

### (2) 本単元における手だて

#### ① カリキュラムマネジメント

国語「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」や社会「きょう土の伝統文化と先人のはたらき」「東京都の特色ある地いき～新宿区でさかんな東京そめ小もん」教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を組み立てた。

国語「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」では、文章を読んで構成を捉えるとともに、中心となる語や文を見つけて、書かれていることを要約する力を身に付ける単元である。学習のゴールである「伝統工芸のよさを(リーフレットで)伝えよう」を意識し、児童自身が伝統

工芸について分かりやすく伝える、という明確な目的をもって、要約したり必要な情報を読み取ったりすることができる単元である。と同時に、筆者がどのように伝統工芸のよさを広めようとしているのかも学ぶことができる単元でもある。

社会科「きょう土の伝統文化と先人のはたらき」「東京都の特色ある地いき～新宿区でさかんな東京そめ小もん」では、新宿区の地場産業、伝統工芸である東京染め小紋を人々が協力し守ってきたことや特色ある街づくりや産業の発展に努めていることを学習する。また、この学習を通して伝統工芸品が多く残る東京都に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うこともねらいである。

この2つの教科、単元を同時並行に学習することで様々な面から伝統工芸やそれを取り巻く環境や人々の理解が深まると考えた。そして、これらの学習の延長線上に本単元を位置づけることとした。

### ②「授業ストーリー」の共有化で問題解決の見通しをもたせる。→学習の連続性に

「これから受ける授業がどのように進んでいくのか」という授業ストーリー展開を、児童と作成したり、必要なタイミングで児童に知らせたりすることで、問題解決の見通しをもちやすくなるだろう。授業には「学習問題」があること、その学習問題を解決することが学習の目的であることを意識化させていくことで、学習の目的達成のために、何に着目し、どう調べ考え学んでいけばよいかの見通しをもちやすくなるだろう。

児童の疑問が、みんなで解決していくべき「学習問題」となり、学習問題の意味を自分なりに把握する。予想を出し合って見通しをもち、力を合わせて調べたり、考えたりするストーリーを児童と一緒に考えることは自分の「学ぶべきこと」「考えるべきこと」を知ることができ、学習への主体性ももたらすと考えた。

### ③「探究・思考サイクル」の提示

C—TEFCAS という思考サイクルを提示していく。どのように学ぶか見通しがもてる。試行錯誤することを認められているので、失敗を恐れない心が育つだろう。

C (キャッチ) 課題の発見。

S (サクセス) 成功のイメージをもつ。

T (トライオール) 考えうることをやってみよう。

E (イベント) トライした結果、起きた出来事。

F (フィードバック) 自問自答する。他者の意見を聴く。

C (チェック) 考えたことが妥当なのか。

A (アジャスト) 調整、試行錯誤。

S (サクセス) ひとつの成功、または失敗してもその方法では難しいことが分かるので成功となる。

これをくり返すことで、探究的思考が育つだろう。

### ④ 地域の企業、商店街との連携

安方商店街、矢口商店街、地域の商店、幼稚園、保育園との連携をしていく。積極的に連携していくことで開かれた学校づくりになる。また、様々な形で直接、訪問させていただいたり、授業にアドバイザーとして参加していただいたりする中で交流を深めることが、児童が地域の一員としての自覚を養っていくだろう。また、継続していくことが大切である。



## ⑤児童・教師・参観教師の「振り返り」の工夫

### ★児童の「振り返り」

#### (1) 毎時間の学習問題(課題)への振り返り

毎時間の学習のまとめ、いわばQに対するAのまとめ。「なぜ~だろう」という問題であれば、「なぜなら~だからである」、「どのように~しているのだろう」という問題であれば「~のように~している」、「~をやって~しよう」という問題であれば「~してみたら~できた、できなかった」など、授業を通して獲得される概念的な知識やその理解状況を表現する。

#### (2) 毎時間の学び方への振り返り

学習方法や学習過程への振り返り。「今日の話合いで参考になった意見は~」

「今日は~を調べてみたから~が分かった」「次は~を~して調べてみたい」

「~に聞いてみたら~がわかった」といった振り返りをし、自分の学び方や学んだことの意味の自覚を促す。また、視点を「自分自身」「友だち」「学級(全体)」の3つもたせることで多面的・多角的に捉える力を鍛えていく。

#### (3) 単元の学習問題やテーマへの振り返り

単元内のまとめや単元最後におこなう学習の振り返り。

自分の学びの質と内容を自覚するために、毎回の授業では(1)(2)、単元内のまとめや単元最後で(3)を振り返らせることで、児童が「自分は何を学べたのか」「どのように成長したのか」「何をしたから調べることができたのか」「それでもなお、わからなかったことは何か」などをつかむことができるだろう。このような「知識・技能」が次の学習に向けてさらに問い続ける姿勢、すなわち「学びを向かう力」を鍛えるだろう。

### ★教師の「振り返り」

(1) 児童の疑問がみんなで解決していくべき「学習問題」となっていたか。

(2) 学習問題の意味を、児童一人一人なりに把握していたか。

(3) 予想を出し合って見通しをもてるようにしていたか。

(4) 一人一人の活動が保障され、みんなで力を合わせて調べたり考えたりしていたか。

(5) 児童一人一人が視点にそった「振り返り」をし、次に目を向けて思考しているか。

### ★参観教師の「振り返り」

自分以外の教師の行う授業を見る目を育てることで、自分自身の授業改善につながる。授業の「見方」を鍛えていく。(途上)

#### (3) 本時授業目標達成のための手だて

##### ①「授業ストーリー」を児童が考える

→本時のめあて、学習活動(流れ)、時間配分を児童が考えることで、意欲を高め、また活動の見通しをもたせやすくなるだろう。

##### ②商店会長を教室にお招きし、直接プレゼンし、感想やアドバイスをいただく。

→今後の活動の励みや試行錯誤につながるだろう

##### ③ムーブノートの活用

→日常的にも活用しているムーブノートを授業内で活用することは、より多くの児童同士の意見交流が可能になるだろう。また、時間内に交流できない場合も、ムーブノートに各フォルダーを作ることで、休み時間、放課後に全児童が意見を交流させることが可能となる。

9 本時（10 / 21）

(1) 本時の目標

- ・地域や商店街の人たちの思いや願いに添って、自分たちが創出したものを提案することができる。（知識）また、再考している。（思考・判断）
- ・相手に応じてわかりやすくまとめ、表現することができる。（まとめ・表現）
- ・自分と地域とのつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。（社会参画）

(2) 本時の展開

|   | ○学習活動   | ☆指導上の留意点  | ◆学習活動に即した具体的な評価規準(評価方法)  |
|---|---|---|--|
| つかむ   | ○本時の学習の見通しをもつ<br>・めあてをたてる<br>・活動の流れを考える<br>・時間配分を決める  | ☆学習計画表を振り返りながら、本時で何をするのか見通しをもたせ、自分達でめあてをたて、活動の流れをつくり、学習活動の時間配分を考えさせる。   | ◆課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組もうとする。  |
| (仮) 提案するものをわかりやすく発表し、友だちや商店街会長さんにアドバイスをもらおう |   |   |  |
| 活動する  | ○発表する<br><br>8グループが繰り返す<br><br>①提案をする<br>②児童同士が質問やアドバイスをし合う<br>(③商店街会長さんからアドバイスをいただく。)<br><br>○商店街会長さんからお話を伺う。<br><br>作戦タイム<br>○自分たちの提案を再考する。 | ☆提案するものについて「いつ、どこで、だれが、何を、どのように使用するか」など相手を意識させるように促す。<br><br>☆その場でアドバイスしきれなかったものは、ムーブノートを活用して伝えられるようにする。<br>→ムーブノートへの書き込みは、各チームの入れ替えのみでおこない、間に合わない場合は、休み時間、放課後におこなう。<br><br>☆もらったアドバイスなどをいかして次の活動の見通しをもたせる。 | ◆地域の人たちの思いや願いに添って、自分たちが創出したものを提案することができる。（知識）<br>◆相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。（まとめ・表現）<br><u>発表・ICT</u><br>◆自分と地域とのつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。（社会参画） <u>ワークシート</u> |
| 振り返る  | ○ふりかえり<br><br>○発表   | ☆今日の自分、友達、学級という視点で振り返りを行う。<br>☆本時で何を学んだのかを発表する。   |  |

### (3) 板書計画

|          |   |        |
|----------|---|--------|
| 9月28日(水) |   |        |
| 今日のめあて   | (仮) 提案するものをわかりやすく発表し、友だちや商店街会長さんにアドバイスをもらおう |        |
| 今日取り組むこと | ①手ぬぐい・Tシャツ                                  | ⑤コースター |
| 活動①      | ②のぼり  | ⑥ステッカー |
| 活動②      | ③ざぶとん                                       | ⑦のれん   |
| 活動③      | ④うちわ・包そう紙                                   | ⑧ポスター  |

### (4) 授業観察の視点

- ①「総合的な学習の時間」の目標と照らし合わせて  
(探究活動について)
  - ① 興味や関心をもっていたか
  - ② 見通しをもっていたか
  - ③ 粘り強く取り組んでいたか
  - ④ 自分の学びの振り返りができていたか

#### ②研究主題からの視点

##### 地域とともに生きる児童の育成～地域財発掘からのカリキュラム開発～

- ・本単元、本授業の手立てから、自分が授業に生かせそうなことはあったか。  
またそれをどう使いたい、使えそうか。

#### ③授業をどこから参観していましたか？何に注目して見ていましたか。

「授業の見方」を磨くことでご自分の授業改善につながる。